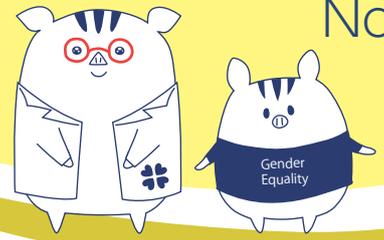


ジェンダー平等 推進部門 便り



2024年6月28日発行

神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンタージェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 Tel: 078-803-5471/5017

就任のご挨拶

ジェンダー平等推進部門
副部門長

桔梗 宏孝

(システム情報学研究科教授)

システム情報学研究科の桔梗宏孝です。神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンタージェンダー平等推進部門の副部門長を令和5年11月1日付で拝命いたしました。以前、この部門の協力教員を務めたご縁での任命と思われます。私自身、まだまだ無意識にたくさんの偏見をもったままだと思ひます。ジェンダーの平等について学ばせていただきながら、ジェンダー平等推進部門の任務がうまく遂行できるように努力してまいりたいと思ひます。私の専門は数学です。理学系、工学系の博士課程における女性比率は近年増加傾向にあるのに、数学を専攻する女性の比率は日本では減少傾向にあるという記事を最近見かけました。諸外国では数学でも博士課程の女性比率は多くなっているようです。日本でも、学部レベルでは数学科の女性の比率は高いようですが、修士課程や博士課程になると減っているようです。この状況には様々な要因が考えられているようです。この例に限らず、女性が少ない分野は女性には向いてないと何となく思われているのかも知れませんが、色々な要因が複雑にからんでいるのだと思ひます。皆様のご協力を賜りながら、ジェンダー平等推進部門のメンバーとともに山積みの課題に取り組んで行きたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

ジェンダー平等推進部門
コーディネーター

田中丸 治哉

(農学研究科名誉教授)

当方、令和6年3月に定年退職し、同年4月からジェンダー平等推進部門コーディネーターに就任しましたので、一言ご挨拶させていただきます。これまで農学研究科に勤務し、河川流域における水の動きの解明、洪水・渇水災害の防止法、水資源の有効利用法に関する教育研究に取り組むとともに、地域連携推進本部にも籍をおき、地域の課題解決に資する教育研究と実践活動への支援に当たってまいりました。一方、ジェンダー平等推進部門においては、おもに女性リーダーの育成について取り組むことになり、そのための外部資金の申請が同部門での最初の仕事となりました。ジェンダーイクオリティやインクルージョンに関しては、報道で耳にする程度の知識しかない中で、これまでと大きく異なる業務に携わることになりましたが、部門長の野田和恵先生、主任政策研究職員の中原朝子氏にご教示いただきながら仕事を始めております。前任コーディネーターの谷明勲先生は、前々任の内田一徳先生から引き継いだダイバーシティ事業を担当され、本学における男女共同参画の推進に大いに貢献してこられました。当方もこれまでの先生方の実績を土台としながら、本学のダイバーシティの推進に少しでも寄与できるように努力する所存です。皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

退任のご挨拶



ジェンダー平等推進部門
コーディネーター

谷 明勲
(工学研究科名誉教授)

定年退職後に3年間勤めさせて頂いたジェンダー平等推進部門コーディネーターを3月末日で退職しました。在職中は、令和5年度で事業を終了した文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」を主に担当し、6月初旬に最終事業報告書を提出しました。私は、コーディネーターに就任して初めて、ジェンダー平等に関する仕事に携わりましたが、皆様の暖かいご支援で仕事を全うでき、心よりお礼申し上げます。少し注意すれば、新聞やテレビ、ネットなどの媒体で、ジェンダー平等に関する多くの情報が提供されていることに気づきます。これらの情報には、ジェンダー平等に対して肯定的なものだけでなく、マジョリティがアンコンシャスバイアスにより考えに合わないものを排除するような否定的なものも含まれます。私は、定年退職までの65年間、ヘテロセクシャル・シスジェンダーのマジョリティ男性として生きてきました。いろいろな情報に接した効果かどうかはわかりませんが、妻からは、最近、私の言動や振る舞いが就任前とは変わったと言われますので、マジョリティ男性が持つアンコンシャスバイアスをいくらかは解消できたと思いますし、今後とも自身のアンコンシャスバイアス払拭に勤めたいと思います。今後は、田中丸治哉先生がコーディネーターを務められますが、今後とも神戸大学のジェンダー平等が推進されるよう応援させていただきます。

UNESCO
Chair

2024年度ユネスコチェア教育プログラムの

開催が決まりました

実施期間：2024年12月7日（土）～12月8日（日）10:30～16:30（両日）

神戸大学ユネスコチェア「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」事業の一環として、海外の連携大学（ガジャマダ大学（インドネシア）、トゥンク・アブ・ドゥル・ラーマン大学（マレーシア）、高雄科技大學（台湾）等）と合同で教育プログラムを開催します。英語で行う本プログラムは、各大学による災害の現状報告、災害に関する学習、小グループに分かれての災害・減災に関するディスカッション及び報告で構成されています。海外の大学生との議論を通して、頻発する災害について自らは何ができるのか、多様な視点から災害・減災を考える機会となります。募集期間は10月7日～11月10日です。詳しくはGEMsや以下のURLをご参照ください。

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/news/2024/post-1.html>



神戸大学

ユネスコチェア
ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを
中心に据えた減災対策

令和5年度国際共同研究者養成プログラム 研究報告

令和5年度 国際共同研究者養成プログラムに採択して頂き、令和6年2月末～3月に共同研究を実施中のルンド大学に行ってきました。我々の研究は精神障害を持つ人を対象にした、Satisfaction with Daily Occupations and Occupational Balance (SDO-OB) の日本語版開発です。SDO-OBは作業バランスに関するインタビュー用紙で、その原版の開発者である Mona Eklund 教授と Elisabeth Argentzell 准教授がスウェーデンチームの共同研究者です。

ここでいう「作業」とは食事や更衣、家事、趣味、仕事など私たちが日常で行っているあらゆる活動を指します。作業をバランスよく行うことは、病気や障害の有無に拘わらずすべての人の Well-being にとって重要といわれています。精神障害を持つ人に関しては、精神障害を持たない人よりも睡眠時間が長いなど、作業の不均衡が指摘されています。SDO-OB の日本語版が開発されれば、精神障害を持つ人の作業バランスを効率的に聴き取り、評価できるようになります。そして SDO-OB は、作業の不均衡を感じている精神障害を持つ人に対して、その人が行いたいと思う作業に着眼したリハビリテーション計画の立案に貢献できると考えています。

令和5年度下旬にデータ収集が終了したため、今回の滞在では論文草案と将来の共同研究に関する議論をしてきました。論文草案に関しては、ノンバーバルなメッセージを含めた対面・リアルタイムのやりとりができたため、オンラインの場合よりも活発で率直な議論が出来ました。将来の共同研究の可能性については、同じく Eklund 教授と Argentzell 准教授によって開発された精神障害を持つ人に対する作業バランスをよくするための介入プログラムの研究の進捗について話を聞きました。そして、日本を含めた外国に導入する場合の具体的手順やアレンジを要する点の可能性などを質問し、議論しました。

滞在によって具体的に研究が進捗し、将来に向けての議論ができたことで、精神障害を持つ人が行いたい作業を支援するリハビリテーション、つまり作業バランスをよくするリハビリテーションの重要性と可能性を改めて感じることができました。SDO-OB の現場への導入を目指して研究を進めます。

保健学研究科 助教 胡 友恵

【派遣期間】2024/2/27-2024/3/11

【派遣国】スウェーデン

【派遣先研究機関】Lund University



Biomedical Centre (ルンド大学 医学部)



ルンド中央駅前 (留学生も多く、国際色豊かな街です)

令和6年度国際共同研究者養成プログラム採択者が決定しました

本年度4月末締切にて募集しておりました「令和6年度国際共同研究者養成プログラム」について、以下の方々が採択されましたのでお知らせします。

(五十音順)

氏名	所属	職名	共同研究者所属機関	共同研究タイトル
茶谷 絵理	理学研究科	准教授	台湾国立陽明交通大学 (台湾)	レーザートラッキングを用いた液滴状タンパク質濃縮体の形成と制御方法の開拓
ドルノ シェク ソルコ シュペラ	国際文化学研究科	特命講師	The Royal Central School of Speech and Drama (イギリス)	Migrant grammars - new vocabularies, emerging futures (移住する文法—新たに生成される語彙と複数形の未来)
古谷 真樹	人間発達環境学研究科	准教授	Massey University (ニュージーランド)	国際比較に基づく有職介護者のライフスタイルと睡眠の分析： 女性の仕事と介護両立への具体的支援策の提案

◆ ユネスコチェア研究プログラム

神戸大学ユネスコチェア事業は、「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」をテーマとした教育プログラム、研究プログラム、セミナーの開催、ガイドライン等の作成を活動の柱として展開しています。研究プログラムについては、現在学内の研究者と共同で研究プロジェクトの立ち上げを企画しています。現段階でのテーマは「防災・災害時における無形 (intangible) なものの保護についての研究～ジェンダーの視点から～」(仮) です。

関心のある方は神戸大学ユネスコチェア gnrl-unesco@office.kobe-u.ac.jp 宛にメールでお問い合わせください。

◆ 科研費プロジェクトについて

ジェンダー平等推進部門員が行っている「大学における『Inclusive 文化』形成ージェンダー意識の把握と改革の実現ー」(JSPS 科研費 2022 年度挑戦的研究 (萌芽) 22K18555、研究代表者:アレキサンダー・ロニー) の研究の一環として実施したアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。現在、データの処理やワークショップの準備を行っており、間もなく参加希望者へ連絡する予定です。成果については、部門ニュースやホームページなどで報告します。

ジェンダー平等推進部門内に情報コーナーをオープンしました

ジェンダー平等推進部門 (六甲台第 2 キャンパス・眺望館 2F) に、多様な性やジェンダーに関する書籍を読んだり、DVD を視聴できる情報コーナー (以下写真) をオープンしました。貸出も行っています。神戸大学構成員であればどなたでもご利用頂けます。ぜひ、お立ち寄りください。



利 用 案 内

開室時間：

平日 10:00-16:00

※開室日・時間は変更になる場合あり

貸 出：5 冊・点

貸出期間：2 週間

— お・知・ら・せ —

◀ 多様な性・ジェンダーに関する相談窓口のご案内

ジェンダー平等推進部門では、神戸大学構成員の皆様の多様な性・ジェンダーに関する相談に対応しています。ご相談は、こちらの QR コードから。

多様な性・
ジェンダー
に関する
相談窓口



◀ 多様な性・ジェンダーに関する研修動画のご案内

神戸大学 ICHC センター 多様な性・ジェンダーに関する構成員向け研修作業部会が、「多様な性、ジェンダーに関する研修 知識と理解編～多様な構成員が活躍できる環境づくりをめざして～」を制作いたしました。

多様な性・
ジェンダー
に関する
研修動画



◀ ダイバーシティ教育プログラム動画のご案内

ジェンダー平等推進部門では、男女共同参画の推進に向けて教育プログラム (e ラーニング) を作成しました。学内限定で公開しています。ぜひご活用ください。

ダイバー
シティ教育
プログラム
動画



ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

ジェンダー平等推進部門HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>